

Akatake Times

ゴールデンウィークも明け、五月病という恐ろしい病が流行る時期になりました。
なんと7月中旬まで祝日での休みはありません！？
体調に気を付けて、適度に休み、メリハリをつけて頑張りましょう。



『湯けむり探訪 草津温泉』

紅葉がきれいな季節に群馬県の草津温泉へ行ってきました。
半年ほど前の写真ですが、温泉の成分である湯の花の採取や湯温を調整する湯畑という施設です。
夜にライトアップされた湯畑の景色がとても幻想的で最高の眺めでした。
皆さんも是非行ってみたい下さい。

撮影日時: 2022年 10月 29日

製造部 製造1課 杉山 拓実さん

◆「100年企業のイロハ」

4月に入り、新年度が始まりました。学校では卒業式、入学式が行われ、新たな希望を持った生活が始まった人達がたくさんいます。私の孫の中でも二人が高校入学、一人が中学校入学で、今までの私服での登下校と違って、制服で学校へ通う姿を見て、成長したなあって感じて、嬉しい気分になります。その分自分が歳をとってきたのも現実なのですが・・・。

さて、日本の企業は海外に比べて長寿企業が多いと言われているようです。我が社は52年目ですが、100年以上の歴史を持つ企業は現在、日本に2万社以上あると言われています。世界的に見ると、ほとんどの会社が100年以内に潰れてしまうそうです。しかし、国際的な超大企業には100年以上の歴史を持つ会社が多いようです。このような背景から最近、日本の企業経営に関心が高まっているようです。なぜ日本には100年以上も続く長寿企業が多いのでしょうか？この点に着目した報道番組が放映されたことがあります。そこでは三つの企業が紹介されました。

一つ目は鋳物の会社でした。これは長年培ったものづくり技術を水平展開することによって発展したという例でした。

二つ目が寺や神社の建立を行う宮大工の会社でした。この会社は我が国最古の企業と言ってもよい長い歴史を持つ会社ですが、バブル経済全盛期に業容を拡大して破綻寸前になりました。しかし、会社が再建を目指して元の宮大工の事業に戻ると、宮大工の社員たちはその発展に全力を尽くしました。その結果、会社は再び甦ったという内容でした。

そして三つ目が、洗剤を扱う巨大企業の話でした。この会社は、消費者に対してより良い商品を提供することをひたすら目指した結果、大きくなったそうです。

三つの会社に共通していることは、まず会社が独自技術を持っていること、そして、その受け皿となる社是が、軽率な業容拡大や投資を戒めていることでした。その点から見ると、粉体技術の分野は長寿企業が育つには良い環境にあるのかもしれませんが。事実、100年に近い歴史を持つ会社もいくつか存在します。ただし、息の長い経営には、有能な後継者の育成が必要不可欠であります。また、その会社にしか無いもの、その会社でなければ出来ないオンリーワンを持つことが、大事な要素になると考えられます。

◆「どこにでもいる、粉という魔物」

「粉体」は大変身近な存在です。おしゃれに使う化粧品、小さい頃遊んだ砂場、家で飲むコーヒー、台所で使う小麦粉など、私たちは日々粉体に囲まれて生活しています。さらに粉体は大変重要な存在です。粉体は、あらゆる工業製品に使用され、私たちの生活に不可欠な水、空気、エネルギーなどのインフラを支えています。しかし、粉体を取り扱うことは大変難しいことも良く知られています。粉体を細かくしていくと、お互いにくっついてしまう、粒子を液体中にうまく混ぜることができないなど。特に粉体を構成している個々の粒子は、肉眼では識別できない程度に小さいものが多いので、その取扱いが困難なことは当然かと思えます。だから産業界では「粉は魔物」と言われているのです。

◆「長寿の秘訣」

我が社は粉体機器メーカーです。常に新しいものを作っていかなければなりません。我が社にしかないもの、我が社でなければできないものを作っていって、それを武器に商売に繋げていくことが、安定した経営に繋がり、長寿企業になる方法だと考えます。あと48年頑張れば100年の長寿企業の仲間入りです。焦らず、前を向いて一步一步進んでいくことが大事かと思えます。頑張りましょう！！